

放送ストリーミング情報掲載

放送ストリーミング情報【2023No.321】(HP 掲載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

曲名：ピアノ協奏曲第 23 番イ長調 K. 488

演奏：エフゲニー・キーシン (ピアノ) / ファビオ・ルイーゲ指揮ベルリンフィルハーモニー

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/55022>

2023 年 10 月 8 日ベルリンフィル大ホールにおける演奏です。



ルイーゲとキーシンがモーツァルトで共演

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィルによる最後の公演のソリストとして、弱冠 17 歳でベルリンフィルにデビューしたエフゲニー・キーシン。それ以来、卓越した音楽性とテクニックで感銘を与え、現代における重要なピアニストの一人となっています。今回独奏を務めるのは、モーツァルトのピアノ協奏曲第 23 番。そのほか、ファビオ・ルイーゲが後期ロマン派の作曲家フランツ・シュミットの交響曲第 2 番と、ハイドンの弟子マリアンナ・マルティネスのシンフォニアを指揮します。

以上の他に下記が演奏されました。

マリアンナ・マルティネス シンフォニアハ長調

フランツ・シュミット 交響曲第 2 番変ホ長調

今回からスピーカーアキュライザーの活用(1)で報告したようにスピーカーアキュライザーの設置条件が変更されています。

ピアノ協奏曲第 23 番イ長調は、お馴染みの曲です。キーシンのピアノの響きが美しく、オーケストラの音も滑らかです。アンコール曲は、これもお馴染みのピアノ・ソナタ第 11 番イ長調 K. 331 より〈トルコ行進曲〉で、モーツァルトらしい美しい旋律です。

マルティネスのシンフォニアは、初めて聴く曲ですが、マルティネスはハイドンの弟子

ということで、ハイドンやモーツァルトに近い優雅な表情の曲です。

シュミットの交響曲第 2 番は、初めて聴く曲です。シュミットは後期ロマン派に属する作曲家で、曲の表情はシューマンやブラームスを受け継いだようなオーソドックスなロマン派の交響曲という印象です。木管が活躍するところなどはロマン派らしい表情を漂わせています。

以上のように、ピアノの美しい響きやオーケストラの音の滑らかさは、スピーカーアキュライザーの設置条件の変更の効果かと思われます。



以上